

揖斐農林事務所の普及活動状況 令和6年4月30日現在

ぎふ農業・農村を支える人材育成

■指導農業士 令和6年度総会の開催

揖斐地区指導農業士会の通常総会が4月5日に開催された。今年度は揖斐地区指導農業士として、9名が活動を行う。会長から、前年度の活動協力に対するお礼と今後の積極的な活動についての依頼が述べられ、その後の審議にて議案は全て承認された。

総会後は交流会が開催され、会員や関係機関と地域や経営の状況などについて意見交換することができた。

農業普及課も引き続き指導農業士の活動を支援していく。



【会長あいさつ】

■関係機関との連携 第1回営農連絡会議を開催

第1回営農連絡会議を4月22日に開催した。営農連絡会議は、管内の農業状況について情報を共有するため、農業普及課の主催で、揖斐川町、大野町、池田町、JAいび川、NOSA I 岐阜をメンバーに開催している。今回は、各機関から令和6年度の事業計画及び施策について報告し、目標に向けた連携方法について検討した。

今後も、隔月で会議を開催し、生産者支援に向けた連携強化を図っていく。



【会議の様子】

ぎふ農畜水産物のブランド展開

■小麦種子 ほ場審査を実施

4月15日に、生産者、JA等関係者と協力し、令和6年産小麦（品種：イワイノダイチ）種子栽培ほ場の審査を行なった。

小麦種子は、大野町採種圃生産組合により、約46haで生産されている。今年産の生育は、2月まで平年より気温が高く進んでいたが、3月が低温で停滞し、平年並みの時期に穂が出揃った。概ね順調に生育しており、ほ場審査により異なる品種が含まれていないことなどを確認した。今後は、糊熟期（5月）に最終審査を行い、収穫後、生産物審査（発芽試験）を経て、来年作の種子として県内に配布される予定である。

農業普及課は、適期収穫の情報提供等支援を行っていく。



【ほ場審査の様子】

■かき 摘蕾講習会の開催

4月26日、大野町内の6会場で大野町かき振興会技術部による摘蕾講習会が開催され、生産者約260名が出席した。

摘蕾作業はヘタスキ果の軽減、大玉果の生産につながる重要な作業である。

生産者からは、品種による摘蕾方法の違いや、柿の生育状況の質問があり、熱心に研修を受講していた。

農業普及課は、柿の生育状況、害虫の発生状況等に関する情報提供を行った。生産者は、令和6年産柿の良品質安定生産に向け意識を高めた。



【研修会の様子】

■茶 一番茶初摘み ～美濃いび茶の摘採開始～

本年は、3月の低温により平年と比べ2日遅く萌芽したが、その後の気温が高温に推移したため、平年並みの摘採期を迎えた。（農）美濃いび茶宮地生産組合では、4月27日に‘やぶきた’の摘採を開始した。適度な降雨もあり生葉の品質は良好で、摘採された生葉は共同工場にて荒茶に加工し販売される。

農業普及課では、適期摘採に向けた情報提供を引き続き行い、良品質な茶生産の支援を進めていく。



【美濃いび茶摘採の様子】

■アスパラガス 栽培研修会の開催

4月23日、JAいび川担い手サポートセンターにおいてアスパラガス栽培研修会を行い、生産者や関係機関12名が出席した。

農業普及課から、GAP取り組みの推進、立茎時期の判断やポイント、ハウスの温度・湿度管理について情報提供を行った。生産者からは「立茎の管理が今後の収量が拡大できるポイントになる。部会員で研鑽して、おいしいアスパラガス生産をこころがけよう」との意見が出るなど有意義な研修会となった。

今後も収量の安定確保を目指した栽培管理支援を継続的に行う。



【栽培研修会の様子】

■いちご 親株研修会の開催

4月12日、15日、19日に、各いちご生産組合で親株研修会が開催された。いちご栽培では、充実した健全な苗を作ることが安定生産につながるため、生産者らは熱心に資料等確認を行っていた。

農業普及課から、今後の栽培管理において発生しやすい病害虫の防除や、育苗に遅れがないよう作業のポイントについて情報提供及び助言を行った。

今後も安定したいちご生産に向けた栽培管理の支援を継続して行う。



【研修会の様子】